

2010 - 2020年代に向けて

家 正則(国立天文台)

- すばる望遠鏡は今後30年間は運用。
 - ALMAの枠組みが立ち上がる。
 - だが、2015年には次世代超大型の時代
CELT / GSMT, OWLなど
- すでに国際協力の枠組構築の動きが活発化。
- SPICAそのものとその先を具体化する。
 - 地上とスペースへの資源投入バランス。
 - 国策プロジェクトと大学プロジェクト。
 - 法人化の中でこれらをうまく育むには。

光赤外線天文学将来計画検討会

- ・検討会結成(2003年1月):全体世話人(家)
 - サイエンス班(千葉班長)、土居、杉山、小久保、茂山、
 - 地上望遠鏡班(高見班長)、土居、本原、臼田
 - スペース班(田村班長)、中川、山田
- ・光天連、国立天文台将来計画WGとの連携
- ・地上超大型 日本独自20m構想、国際協力30m構想
- ・国立天文台内準備室の立ち上げ
- ・スペース 宇宙理学委員会への提案
- ・天文研連等コミュニティのバックアップ

マイルストーン

- 光赤外将来計画検討会発足(2003/1)
- IAU GA XXV, ELTWG, Comm. 9 (2003, 7/21, Sydney)
- 光赤外将来計画シンポI(8/21-22, 三鷹)
- Backascog ELT WS (9/9-11, Sweden)
- Marseille ELT Science WS(11/6-7, Marseille)
- OECD GSF(12/1-3, Munchen)
- すばるUM + 光赤外将来計画シンポII(2004, 1/20-22:, 三鷹)
- 光赤外将来計画白書(2004/3月)、和文 + 英文、ウェブ
- 法人化(2004/4)
- 国立天文台準備室立ち上げ(2004/4月)
- Astrophysical Instr. for 21c. (2004, 5/19-21, Berlin)
- SPIE (2004, 6/21-14, Glasgow)